

事業報告（平成2年度）

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 京都市立芸術大学芸術資料館 公開日: 2022-11-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15014/00000397

This work is licensed under a Creative Commons
Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0
International License.



事業報告（平成2年度）

I. 展示関係

A. 収蔵品展一覧

1. 芸術資料館陳列室

第1回 「新収蔵品展」

会 期 平成2年4月9日（月）～4月28日（土）

入場者 965人

第2回 「美工図案科卒業作品－花による意匠」展

会 期 平成2年6月18日（月）～7月7日（土）

入場者 1160人

第3回 「美工卒業作品 近代日本画の芽ばえ」展

会 期 平成2年9月10日（月）～10月6日（土）

入場者 1161人

第4回 「模写 入江波光たちの作品」展

会 期 平成2年11月5日（月）～11月25日（日）

入場者 2410人

第5回 「江戸後期の仏教図像－田村宗立旧蔵粉本」展

会 期 平成3年1月14日（月）～2月9日（土）

入場者 691人

◎総計 6387人（100日開室）

2. 京都市四条ギャラリー

京都市四条ギャラリー（四条高倉）において、本学創立110周年記念事業実行委員会が主催する収蔵品展を開催した。

「京都市立芸術大学創立110周年記念収蔵品展2

土佐派肖像粉本－将軍・茶匠・町衆－

会 期 平成2年7月1日（日）～7月22日（日）

入場者 2749人

「京都市立芸術大学創立110周年記念収蔵品展3

画家の眼 日本画－写生と下絵

会 期 平成2年9月9日（木）～9月30日（日）

入場者 4681人

3. 京都市立芸術大学創立110周年記念巡回展

京都市立芸術大学創立110周年を記念して下記のとおり巡回展を開催した。

収蔵品を中心とした展示であるためここに報告しておく。主催は京都市立芸術大学と朝日新聞社（京都会場のみ京都新聞社を加える）である。

展覧会名：「近代日本画の誕生と歩み」展

会場：会期：入場者：（下表のとおり）

	会場	会期	入場者
東京会場	上野松坂屋	平成2年9月6日（木）～9月11日（火）	19162人
京都会場	京都大丸	平成2年9月13日（木）～9月18日（火）	27130人
大阪会場	心斎橋大丸	平成2年9月27日（木）～10月2日（火）	15415人
広島会場	広島三越	平成2年12月27日（木）～3年1月7日（月）	22637人
総入場者数			84344人

B. 収蔵品展展示概要

第1回 「新収蔵品展」

会 期 平成2年4月9日(月)～4月28日(土)

入場者 965人

恒例になった新収蔵品の展示である。平成元年度に寄贈または購入により収蔵された作品のうち買上となった卒業作品を除き展示した。絵画類と版画類ばかりの内容となったが、版画資料としての洋書購入は、新しい収集分野といえる。寄贈の分野では元本学名誉教授である今井憲一作品が多く、鑑賞者の好評を得た。榊原紫峰の下絵は写生と画稿を軸とした本館の資料収集方針を明確にする上でも重要な資料となった。

展 示 作 品

1.	梶 喜一	ななことじんこ	1976	日本画	寄贈(梶 幸子氏)
2.	"	行く	1974	"	"
3.	"	霜の朝	1979	"	"
4.	今井 憲一	撮影	1930	洋 画	寄贈(今井柳子氏)
5.	"	山・高原	1931	"	"
6.	"	蓮池	1933	"	"
7.	"	聚落	1956	"	"
8.	"	渚	1965	"	"
9.	"	断面	1972	"	"
10.	"	港	1975	"	"
11.	"	ガーデン	1981	"	"
12.	榊原 紫峰	「梅雨霽れ」下絵	1917	画 稿	寄贈(榊原純一氏)
13.	Pierre Alechinsky		1984	版 画	購入
	Soleil noir 2 (黒い太陽2)				
14.	Pierre Alechinsky		1988	"	"
	Chute des anges legitimistes (天使の降臨)				
15.	William Blake 画	Edward Young 詩	1797	書 籍	購入
	NIGHT THOUGHTS (夜想)				
16.	William Blake 画	Louis Schiavonetti 刻	1813	"	"
	THE GRAVE (墓場)				
	(Robert Blairの詩の挿画)				

第2回 「美工図案科卒業作品－花による意匠」展

会 期 平成2年6月16日（月）～7月7日（土）

入場者 1160人

平成2年に本学は前身である京都府画学校の設立から110周年を迎えた。その記念事業の一環として、明治以来の美工図案科卒業作品の画集である「図案聚英」を刊行している。この展示では記念出版にちなみ、美工図案科卒業作品の中から花をモチーフにしたものを選び陳列した。花をテーマにしたのは大阪で開催された国際博覧会「花と緑の博覧会」を意識してのことだが、アールヌーボーなど海外の美術動向に敏感だった学生の時代感覚を見るのにも適切な題材と考えたためである。これまであまり注目されることのなかった作品群だけに、今後は積極的に展示の機会を増して行きたい。

展 示 作 品

1. 高田 喜一郎	紫苑模様綴織壁掛図案	明36(1903)	第9回卒業制作
2. 中西 三郎	向日葵模様窓掛図案	"	"
3. 梅戸 在貞	朝晝夕意屏風図案	"	"
4. 雪岡 潔	暖爐隠し図案	明38(1905)	第11回卒業制作
5. 高橋 昇太郎	芍薬模様衝立図案	"	"
6. 川畑 克雄	四季草花応用壁張図案	明39(1906)	第12回卒業制作
7. 原田 春太郎	天鷲絨友禅壁掛図案	"	専攻科卒業制作
8. 本多 主計	百合図間仕切図案	明40(1907)	第13回卒業制作
9. 西岡 三郎	四季草花応用暖爐隠し図案	"	"
10. 大高 喜一	四季草花応用窓掛図案	明45(1912)	第18回卒業制作
11. "	四季草花応用卓被図案	"	"
12. 高橋 孝吉	各時代クッション図案	大2(1913)	第19回卒業制作
13. 鶴野 堯	天平模様卓被図案	"	"
14. 中原 恒次郎	四季草花応用窓掛図案	大5(1916)	第22回卒業制作
15. 佐々木 三郎	壁掛図案モザイクタイル	大7(1918)	第24回卒業制作
16. 中島 信次郎	天平時代模様応用調度図案	"	"
17. 大橋 一清	間仕切り図案	大8(1919)	第25回卒業制作
18. 岩木 政造	刺繍応用四季花鳥模様卓被図案	大9(1920)	第26回卒業制作
19. 宇都宮 健造	クッション図案	大10(1921)	第27回卒業制作
20. 奥村 貞一	支那趣味衝立図案	昭12(1937)	第44回卒業制作

第3回 「美工卒業作品 近代日本画の芽ばえ」展

会 期 平成2年9月10日(月)～10月6日(土)

入場者 1161人

本学110周年記念事業として「近代日本画の誕生と歩み」展が東京・京都・大阪・広島で開催された。この巡回展にちなみ、本学内でも日本画科卒業作品を中心に構成した展示を企画した。但し巡回展と内容上の重複を避け、陳列作品は明治期の美工(京都市立美術工芸学校)作品を中心とした。また、当時の教員の習画手本を併せて展示することで、作品の鑑賞に加え明治期の専門的美術教育の様相という視点を意識した。習画手本は数年前から修理を続けている資料で、今回初めて公開するものだが、学校という機関の収蔵する資料の特色を見せて好評であった。

展 示 作 品

〔美工卒業作品の部〕

1. 兼崎 得山	荒原寒風の図	明治30年(1897)
2. 廣井 十七吉	春風の図	明治30年(1897)
3. 北垣 静処	春光	明治33年(1900)
4. 栗林 大然	夕日	明治33年(1900)
5. 有友 鶴城	舊都月	明治34年(1901)
6. 岡 文濤	暗中出手	明治34年(1901)
7. 岡 西湖	荒涼	明治35年(1902)
8. 溝部 月香	観花	明治35年(1902)
9. 立脇 泰山	黄昏	明治37年(1904)
10. 入江 波光	春雨	明治38年(1905)
11. 柴原 希祥	軍鶏	明治38年(1905)
12. 宮崎 拔天	狐	明治39年(1906)
13. 平野 間雲	薄暮	明治39年(1906)
14. 二宮 一鳩	憤	明治40年(1907)
15. 村上 華岳	熊	明治40年(1907)
16. 佐野 一星	ゆきぞら	明治45年(1912)

〔教員制作習画手本の部〕

17. 伝幸野 楳嶺	習画手本帖	明治時代中期
18. 伝幸野 楳嶺	習画手本帖	明治時代中期
19. 竹内 栖鳳	習画手本	明治37年(1904)
20. 菊池 芳文	習画手本	明治37年頃(c. 1904)
21. 谷口 香嶠	習画手本	明治38～39年(1905-1906)
22. 三宅 呉暁	習画手本	明治35～36年(1902-1903)
23. 川村 曼舟	習画手本	明治43年(1910)

第4回 「模写 入江波光たちの作品」展

会 期 平成2年11月5日（月）～11月25日（日）

入場者 2410人

模写展の開催は二年ぶりとなる。本展では入江波光とその周辺の画家による模写を展示した。波光が模写による古画研究の方法に重要な位置を占める画家であることは、広く知られるところだが、また本学の前身である美工・絵専において多くの後進に影響を与えたことも見過ごすことはできない。大型の模写は同輩や後輩らと共同で制作することが普通で、展示の作品も多くはそうした共同作品といえるものである。東洋絵画での模写の位置は今日必ずしも正当に評価されているとは限らないが、過去の模写作品を鑑賞する機会を多く作ることがまず必要なのだろう。

展 示 作 品

1. 入江波光 模 水天像（十二天像の内）
原本 国宝 京都 京都国立博物館蔵
2. 入江波光 模 不動明王像（密教図像の内）
原本 重文 京都 醍醐寺蔵
3. 4. 入江波光・徳田隣斎 模 官女図 何龍 筆 明治44年(1911)
5. 入江波光・榊原雨村・村上華岳 他 模 職人尽絵
原本 重文 埼玉 無量寿寺喜多院蔵
6. 入江波光・辻松喬 他 模 阿弥陀聖衆来迎図
原本 国宝 和歌山 有志八幡講十八箇院蔵
7. 入江波光 模 竹林七妍図 勝川春章 筆
原本 東京 東京芸術大学蔵
8. 入江波光 模 役者絵 山口素絢 筆
9. 入江波光 模 駿牛図
原本 東京 東京国立博物館
10. 入江波光 模 一休和尚像 没倫紹等 筆
原本 重文 東京国立博物館蔵
11. 入江波光 模 臨唐人聴琴図 仇英 筆 明治44年(1911)頃
原本 羅振玉旧蔵
12. 入江波光 模 櫻図 岸竹堂 筆 大正6年(1917)
13. 入江波光 模 菊池芳文 筆 鶉図
14. 入江波光 模 二尊院縁起 伝 狩野元信 筆
原本 京都 二尊院蔵
15. 入江波光・新見孝・中島卯一郎・吉田友一・梅原藤次・竹村龍太 模 住吉物語絵巻 伝 土佐長隆 筆 昭和8年(1933)
原本 重文 東京国立博物館蔵
16. 17. 入江波光・佐野一星・二宮一鳩 模 一遍上人絵伝（巻一上・巻四上）
原本 京都 金蓮寺蔵

第5回 「江戸後期の仏教図像－田村宗立旧像粉本」展

会 期 平成3年1月14日（月）～2月9日（土）

入場者 691人

本学の前身京都府画学校の西宗教諭であった田村宗立は、京都洋画界の草分け的存在として有名である。彼は若いころ京都の六角堂能満院で画僧大願のもと仏画の修行を積んだ経験を持つ。その宗立が所蔵するところとなったこの六角堂能満院仏画粉本は一括して本学に寄贈されており、高い芸術性を持つ仏教美術資料となっている。これまで一般に公開したことのない資料であったが、平成元年本学の田村隆照教授他のメンバーにより行われた文部省科学研究費による研究が終了したこともあり、展示した。やや専門的内容であったためか、来場者は常に比べて少なかったが、仏画研究者などに好評を得た。

展 示 作 品

1. 金剛界八十一尊曼荼羅	大願	万延元年(1860)	紙本白描
2. 理趣会曼荼羅	大願	文政13年(1830)	紙本白描
3. 瑜祇三昧耶形図（1帖13枚）	大願	嘉永3年(1850)	紙本白描一部淡彩
4. 五部心観（1帖76枚）	大願	嘉永6年(1853)	紙本白描
5. 東寺宝庫大曼荼羅（1帖52枚）	大願		紙本白描
6. 請雨経曼荼羅	大願	嘉永6年(1853)	紙本淡彩
7. 一字金輪仏頂曼荼羅	大願		紙本白描
8. 五色光明曼荼羅	大願		紙本白描
9. 毘沙門天曼荼羅（三枚組）	大願	文政12年(1829)	紙本白描
10. 釈迦十六善神図	雲道	文久2年(1862)	紙本白描
11. 二十五菩薩来迎図	大願	文政12年(1829)	紙本白描野線朱描
12. 佛國禪師文殊指南図讃（1帖19枚）	大願	嘉永2年(1849)	紙本白描
13. 渡海文殊菩薩図	宗立	慶応2年(1866)	紙本白描
14. 弥勒菩薩図	大願		紙本淡彩
15. 長谷寺式十一面観音図（部分）	大願	安政2年(1855)	紙本白描一部淡彩
16. 如意輪観音図	現光	嘉永5年(1852)	紙本淡彩
17. 地藏菩薩図	大成	嘉永3年(1850)	紙本淡彩
18. 地藏菩薩図	宗立	文久3年(1863)	紙本淡彩
19. 不動三尊図	大願	文政10年(1827)	紙本白描
20. 不動三尊図	大成	嘉永5年(1852)	紙本淡彩
21. 孔雀明王図	大願	文政12年(1829)	紙本淡彩
22. 五大尊図	現光	弘化4年(1847)	紙本白描一部朱描
23. 天之河社曼荼羅	大願	嘉永7年(1854)	紙本淡彩
24. 十二天図	大願	弘化4年(1847)	紙本白描
25. 毘沙門天図（十二天図の内）	大願	弘化2年(1845)	紙本淡彩
26. 水天図（十二天図の内）	大願	弘化2年(1845)	紙本淡彩
27. 善女龍王図	大願	文政5年(1822)	紙本白描
28. 聖徳太子鏡影	大願	文久3年(1863)	紙本白描
29. 真言八祖図（1帖10枚）	大願	嘉永4年(1851)	紙本白描
30. 傳教大師図	大願	文久3年(1863)	紙本白描
31. 十六羅漢図	宗立	文久2年(1862)	紙本墨画

C. 京都市四条ギャラリー展示

「京都市立芸術大学創立110周年記念収蔵品展 2

土佐派肖像粉本—将軍・茶匠・町衆—

会 期 平成2年7月1日(日)～7月22日(日)

会 場 京都市四条ギャラリー(下京区四条高倉東入)

入場者 2749人

本学創立110周年記念事業の一環として収蔵品展を行った。主催は本学110周年記念事業実行委員会であるが、展示の実際については同委員会のメンバーである本館学芸員が当たった。また展示に際し、かねてより腹案のあった土佐派絵画資料の目録出版を行うこととなり、同実行委員会による刊行物として「土佐派絵画資料目録(一)肖像粉本(一)」が発行された。目録の編集は本学教授榎原吉郎氏、同非常勤講師岩間香氏と本館学芸員で行った。本展示の内容構成はこの目録編集作業から導かれたものである。

展示内容は本学の所蔵する土佐派絵画資料の中から室町時代の将軍肖像と近世土佐派の絵師累代の肖像、そして、千利休をはじめとする茶匠肖像と町衆の肖像等を中心に構成している。これまで、一般に公開していない資料だけに、会期中は美術愛好家ばかりか、美術の専門家の来場も少なくなかった。

展覧会用に、ポスター(B3、3色刷)・はがき(3色刷)・パンフレット(B5判、4ページ)を制作した。展示作品リストと解説としてパンフレットの2～4ページをそのまま転載する。



ポスター



パンフレット



はがき

ごあいさつ

京都市立芸術大学は、明治13年(1880)の京都府画学校の開設以来、本年7月で創立110周年の輝かしい歴史を刻むこととなりました。

今回の「肖像粉本」の展示は、それを記念して先に開かれました収蔵品展1「日本の陶磁器—京焼を中心として」に引続いて開催されるもので、京都芸大が収蔵し調査研究をすすめている土佐家旧蔵の膨大な資料のうち、肖像関係をまとめたものです。

肖像粉本は、他に調査が完了していないものがまだ多数ありますが、今回は特に、近年話題を呼んでいる千利休ら茶匠肖像を中心に急ぎ調査研究をすすめて構成したものです。展示作品は、一般に公開されるのは初めてのもののばかりで、学術的にも貴重な資料として高く評価されています。ご高覧ください。

平成2年7月

京都市立芸術大学

肖像粉本出品目録

品名（落款及印章）	年記	材質	寸法(mm)
土佐光信像	天文14年(1545)卒年	紙本墨画	493×472
土佐光吉像 「源左衛門」	慶長19年(1614)	〃	484×403
土佐光則像		〃	233×380
土佐光起像	元禄4年(1691)卒年	紙本淡彩	545×392
土佐光成像	宝永7年(1710)卒年	〃	544×416
土佐光芳像	安永元年(1772)卒年	紙本墨画	550×352
土佐光淳像	明和元年(1764)卒年	〃	570×390
土佐光貞像	文化3年(1806)卒年	〃	486×362
土佐光孚像	嘉永5年(1852)卒年	〃	545×435
土佐光禄像		〃	329×378
足利義晴像 「光茂」	天文19年(1550)	紙本着彩	243×413
〃 〃		〃	339×380
天竺氏像 「玄二」	天正3年(1575)	紙本墨画	585×470
真采院像 「光茂」		〃	658×449
三好義継像 「玄二」	天正元年(1573)卒年	〃	573×366
足利義輝像 「源氏」	永禄10年(1567)卒年	〃	320×397
〃 〃	〃	〃	202×160
〃 〃		紙本着彩	153×137
武家肖像（像主不詳） 「光則」		紙本墨画	487×323
〃 〃 〃		〃	550×430

品名（落款及印章）	年記	材質	寸法(mm)
千利休像 「画所預之印」印	宝暦9年(1759)	紙本淡彩	1060×404
〃		〃	570×405
〃	元文5年(1740)	紙本墨画	417×282
〃 (「光芳」)	(元文5年)(1740)	〃	907×450
〃		〃	410×374
千宗旦像		紙本淡彩	975×338
原叟宗左像		紙本墨画	407×281
天然宗左像	宝暦9年(1759)	〃	291×405
志野宗信像	宝暦13年(1763)	紙本淡彩	415×280
今井宗久像		紙本墨画	535×404
三好実休像	永禄5年(1562)卒年	〃	545×521
武野宗瓦像	元和2年(1616)	〃	323×428
久田宗全像 「光祐」		紙本淡彩	405×321
久田宗也像 (「光芳」)	延享2年(1745)	紙本墨画	434×297
久田宗参像	寛政12年(1800)卒年	紙本淡彩	398×275
久田耕甫像 (「光孚」)	文政2年(1819)卒年	紙本墨画	407×286
小堀遠州像 (「宗禹」)	(延享3年)(1746)	紙本淡彩	856×300
本津屋道久妻像	元亀3年(1572)卒年	紙本墨画	520×484
戸嶋永秀像	天正2年(1574)卒年	〃	463×402
泉州殿像	慶長2年(1597)卒年	〃	649×505
茜屋宗佐妻像		〃	535×416
天王寺屋宗閑像		〃	402×420
万崎屋そうい・そうへ・箔屋了宅像		〃	536×425
住吉屋正是像		〃	473×435
きぬやちやうかつ像		〃	567×482
針屋某像		〃	542×411
俗体肖像（像主不詳）		〃	465×395
〃 〃		〃	530×422
天王寺屋宗凡像		〃	634×468
長谷川藤広像	元和3年(1617)	〃	429×443
〃		紙本着彩	212×333
裕心像	元和6年(1620)卒年	紙本墨画	478×481
住吉屋求派像	元和9年(1623)	〃	470×323
箔屋了宅像	寛永8年(1631)卒年	〃	318×434
金田屋宗乙像		〃	386×320
中村宗古像		〃	411×399
中村宗古内儀像		〃	541×400
佐々木左京内室像		〃	401×416
佐藤源兵衛母像		〃	400×281
三宅宗丹両親像	寛文7年(1667)	紙本淡彩	397×608
大文字屋宗閑像	(寛文9年)(1669)	紙本墨画	280×424
心源恕清像	延宝5年(1677)卒年	紙本着彩	326×320
肖像画帖		紙本淡彩	223×158

※()のあるものは模写原本の落款及年記を示す。

※表紙図版は戸嶋永秀像

やまと絵を一口で説明することは難しい。平安時代から始まり、鎌倉・室町・桃山・江戸時代へと様々な変遷を経ており、それぞれの時代において、独特の展開を示す。ただ、海外から流入してくる種々の絵画様式に対して、日本独自の様式（和風様式）を創りだし、展開させたものという認識は成立するであろう。和風様式を最もよく表す流派は、なんといっても土佐派を置いてほかにない。

土佐派の画系が比較的判然としてくるのが、15世紀後半の画師、土佐光信以後のことである。とはいえ、彼の生没年については、今なお不明であり、類推の域をでない。しかし、彼以後、光茂・光元・光吉へと継承された画系は、光則が堺から京へもどるまで、戦乱のちまたをさけて、特に光吉が堺に居住していたことは確かである。そして、光則の子・光起が、光茂以後失っていた宮廷の画所預に復帰することによって、京に地盤を築き、流派の栄光をとりもどすことになった。

この土佐派が遺してくれた粉本・画稿・文書類は、初代学長・長崎太郎氏のときに、欣魚洞・松井佳一氏の手を通して、本学に収蔵されることになった。これらを「土佐派絵画資料」と呼びならわしている。その内には、平等院鳳凰堂壁画の模写、京都御所障壁画の下絵をはじめ、源氏物語下絵、職人尽歌合絵巻の下絵さらに写生帖にいたる様々な資料が含まれている。

今回の展示は、これらのうち肖像画のもととなった粉本を陳列することとした。

肖像画の下絵を中世では紙形と称したが、その典型的な作例である足利義晴・義輝の肖像。土佐派累代の肖像。千利休肖像。堺の茶人たちの肖像。町衆の女房たちの肖像。禁中御出入りの医師の肖像。顔のみを集めた画帖など、様々な人々の肖像が、この粉本によって判明してくる。同時に種々の疑問も投げかけてくるのである。

光信・光茂の文子が肖像画の名手であったことはよく知られている。「ハンセウイントノサマ ミツモチフテ」の書込みがある紙形は、まさに名手・光茂の手になることを示す。「ハンセウイン」すなわち、萬松院・足利義晴の肖像である。また「永禄十五 光源いん殿殿源式（花押）」の、墨書をもつ紙形は、義晴の子・義輝の肖像を永禄10年（1567）五月に源式が画いたことを表している。

この光茂と源式との関係について、諸説あり、現在のところ師弟関係と考える説が有力となっている。これは、源式（源二、玄二）と光吉とが同一人物である、と考えるところから出た説である。源式の署名・花押については、写生帖のなかに「源二郎（花押）」の墨書が散見され、今後に課せられた研究課題といえる。

（京都市立芸術大学教授）

●ギャラリー講座

□ 7月3日(火)

「芸大所蔵土佐派粉本について」

榎原吉郎（京都市立芸術大学教授）

●午後5時30分から会場でおこないます。

次回予告

京都市四条ギャラリー9

Tabula rasa

「芸術系大学学生

作品展」

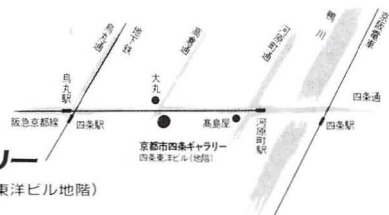
1990・7・26(木)―9・3(火)

京都市四条ギャラリー

京都市下京区四条通高意東入(四条東洋ビル地階)

TEL(075)223-1851 〒600

●開所時間：午前10時～午後7時 ●休所日：水曜日、年末・年始



「京都市立芸術大学創立110周年記念収蔵品展 3

画家の眼 日本画—写生と下絵

会 期 平成2年9月9日（木）～9月30日（日）

会 場 京都市四条ギャラリー（下京区四条高倉東入）

入場者 4681人

本学創立110周年記念事業の一環として収蔵品展を行った。主催は本学110周年記念事業実行委員会であるが、展示の実際については同委員会のメンバーである本館学芸員が当たった。

展示内容は日本画の写生及び下絵類であり、本学110周年記念巡回展「近代日本画の誕生と歩み」展と展示期間を合わせ、本画作品と併せ鑑賞できるよう配慮した。本館収蔵作品ばかりでなく京都市美術館と上村松篁氏から作品を借用し、より充実した内容とすることができたこともあって、会期中多くの美術愛好家で賑わった。

展覧会用に、ポスター（B3、3色刷）・はがき（3色刷）・パンフレット（B5判、4ページ）を制作した。展示作品リストと解説としてパンフレットの2～4ページをそのまま転載する。



ポスター



パンフレット



はがき

ごあいさつ

京都市立芸術大学は、明治13年(1880)の京都府画学校の開設以来、本年7月で創立110周年の輝かしい歴史を刻むこととなりました。

今回の「画家の眼 日本画一写生と下絵」の展示は、それを記念して先に開かれました収蔵品展1「日本の陶磁器—京焼を中心として」、収蔵品展2「土佐派肖像粉本—将軍・茶匠・町衆—」に引き続いて開催されるもので、京都芸大が収蔵しているものを中心に構成しました。日本画における写生や下絵は、生のままの線描に着色以前の作者の息づかいが感じられて、また別種の味わいを持ったものと言えます。卒業作品など本学所蔵の日本画名品は、創立記念の巡回展「近代日本画の誕生と歩み」に展覧されておりますが、併せて観賞いただければ含蓄ふかいものがあると存じます。なお、巡回展の本画と対照できる下絵は、残念ながら含まれていません。

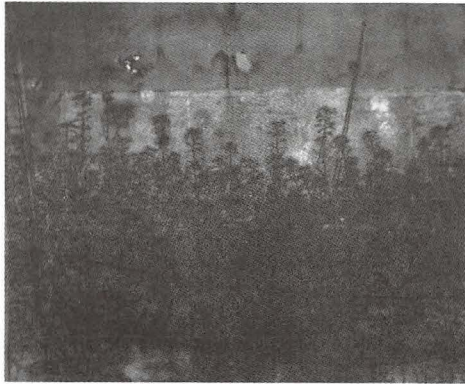
さらに、本学の同窓会会長でもある上村松篁氏と京都市美術館にお願いして、上村松園と竹内栖鳳の下絵を特別出品させていただきました。これによって、一層の充実を図ることができたことを喜んでおります。ご好意に対して御礼申しあげます。最後になりましたが、創立110周年に際しまして、貴重な写生をご寄贈いただいた関係各位にも厚く御礼申し上げる次第です。

平成2年9月

京都市立芸術大学

出品目録

作者	品 名	制 作 年	素 材	寸法(cm)
[下絵]				
榊原紫峰	「花曇り」画稿	明治44年(1911)	紙・墨・胡粉	163.0×187.3
榊原紫峰	「梅雨霽れ」画稿	大正6年(1917)	〃	175.8×372.5
村上華岳	「裸婦」画稿	大正9年(1920)	〃	170.5×107.5
林司馬	「花鳥図」下絵	昭和3年(1928)	〃	134.5×146.5
福田翠光	「篝火燭映」下絵	昭和33年(1958)	紙本淡彩	215.5×154.0
福田翠光	鷹図下絵		紙本墨画	111.0×55.0
[写生]				
土田麦僊	朝鮮の人	昭和10年(1935)	紙本白描	41.7×37.8
石崎光瑠	虫類写生	明治29～36年(1896～1903)	紙本着彩	27.7×288.8
石崎光瑠	けり		〃	80.2×56.1
石崎光瑠	おなが	大正10年(1921)	〃	40.0×56.3
石崎光瑠	緋緋綬鶏	昭和6年(1931)	〃	80.0×107.3
石崎光瑠	蒼鷹・稚子隼	昭和19年(1944)	紙・鉛筆・淡彩	107.7×154.0
石崎光瑠	鶏頭	昭和15年(1940)	〃	142.5×180.0
石崎光瑠	菊		〃	118.4×56.3
石崎光瑠	春蘭		紙本淡彩	55.2×79.1
山本倉丘	あとり	昭和15年頃(c. 1940)	紙本着彩	36.3×24.1
西山英雄	磐梯	昭和42年(1967)	紙・チョーク	40.0×53.0



榊原紫峰「花曇り」画稿



石崎光瑠「けり」

※表紙図版は村上華岳「裸婦画稿」

作者	品名	制作年	素材	寸法(cm)
上原卓	りんご	昭和50年(1975)	紙・色鉛筆	39.5×27.8
上原卓	鳩のくる庭	〃	〃	39.5×27.8
上原卓	カステリオーネ オローナ	〃	〃	39.5×55.8
上原卓	ひまわり	昭和54年(1979)	〃	54.5×39.2
上原卓	鶏頭	昭和55年(1980)	〃	54.5×39.2
上原卓	野の花	〃	紙・色鉛筆・着彩	39.2×54.5
上原卓	糺の森	〃	紙・色鉛筆	54.5×39.2
上原卓	実相院付近	〃	〃	54.5×39.2
[写生帖]				
土田麦僊	写生帖(湯女小下絵)	大正7年(1918)	紙・鉛筆・淡彩	14.6×22.3
土田麦僊	朝鮮写生帖	昭和10年(1935)	紙・鉛筆	22.5×16.1
石崎光瑠	写生帖(花)	昭和6年(1931)	紙・鉛筆・淡彩	23.0×18.9
石崎光瑠	写生帖(高野山)	昭和7年(1932)	〃	26.4×17.7
石崎光瑠	写生帖(印度再遊一)	昭和8年(1933)	〃	28.1×18.5
石崎光瑠	写生帖(印度再遊三)	〃	〃	28.1×18.5
石崎光瑠	写生帖(印度再遊十二)	〃	〃	36.7×27.9
石崎光瑠	写生帖(日光)	昭和10年(1935)	〃	28.6×18.7
石崎光瑠	写生帖(花)	〃	〃	28.0×18.3
石崎光瑠	写生帖(花鳥)	昭和11年(1936)	〃	28.5×18.5
石崎光瑠	写生帖(鷹狩)	昭和19年(1944)	〃	23.6×19.5
石崎光瑠	写生帖(花)	昭和20年(1945)	〃	22.8×15.8
石崎光瑠	写生帖(花)	〃	〃	28.6×18.6
石崎光瑠	写生帖(花)	〃	〃	28.0×18.4
[特別出品]				
(京都市美術館蔵)				
竹内栖鳳	「絵になる最初」下絵	大正2年(1913)	紙・墨・淡彩	197.0×85.0
竹内栖鳳	「蹴合」下絵	昭和5年(1930)	紙・墨・胡粉	118.6×131.5
(上村松堂氏蔵)				
上村松園	「花がたみ」下絵	大正4年(1915)	〃	208.0×127.5

今日写生という語を知らない人はいないと思う。しかし、恐らくその意味は西洋のスケッチの訳語としての認識が最も強いのではないだろうか。スケッチとは臨場的素描の意味だが、少なくとも東洋画に於いてはこれは写生の一部、それも瑣末な内容を語るにすぎない。東洋では古くから写生について深い洞察があり、それは写生が東洋画の根本に位置するものの一つであったためである。南斉の謝赫が著した『古画品録』には絵画の制作観賞にあたって注意すべき六つの法則を記しており、その三に「応物象形」をあげる。これは画の目的を物の本質を描き表わすところに求め、形を写すことにより対象の本質が描きだせると考えたのである。晋の画家、顧愷之は「形を以て神を写す」としてこれを言い尽くしている。この写生の精神は日本にも中世以降急速に浸透した。

近世になり西洋から遠近法や陰影法による視覚的イリュージョンの技法が齎されると、空間や物体の把握を目的とする写実表現が日本の画家達の眼に新鮮に映った。これは多分に技術的な受容であったため、許容性のある東洋画の写生の精神と根本的に対峙することはなかった。しかしそれだけに写生の意味を複雑化することになった。

写生の語が一般に用いられるようになったのは、円山応挙が狩野派や土佐派に代表される粉本主義に対抗するように登場する頃である。応挙の写生は西洋の写実を取入れ、やがて平明な写生画へと展開した。これは東洋画の写生の精神が結局物体の視覚的再現にある

のではなく対象の精神的再現にあることを継承するものと言えよう。逆にいえば西洋の写実が齎されるまで、東洋の写生は空気のごとく自明の在存として認識の外にあったとも言える。従って粉本による様式の上に成立つかの狩野や土佐の家でも写生は生（精神）を写すという意味で厳に重んじられたのである。

明治となり西洋を意識した日本画の概念が生まれると、東洋画の写生と西洋画の素描とは描く過程の表面的な相似から対応する内容を持つかに考えられ、その境界が曖昧なものとなる。しかし写生の精神は、即物的な写実を超えたところに画家の目的を置かせずにはいなかった。従って近代の日本画家はその空気のごとき写生の中に呼吸しつつ己れの個性を開花させることができた。

画家の描く画の目的の一つがその対象の本質の再現にあるとするならば、画は一片の紙に僅かばかりの線を走らせたものに対しても、重厚な彩色を施した大幅にも同等の観賞を行なうことが可能であろう。現に我々はそうした例をしばしば体験しているのである。

(京都市立芸術大学学芸員)

●ギャラリー講座

第1回 9月14日(金)

「本展にちなんで一日本画と写生」
松尾 芳樹(京都市立芸術大学学芸員)

第2回 9月17日(月)

「本展にちなんで一京都の日本画」
大須賀 潔(京都市立芸術大学学芸員)

●午後5時30分から会場でおこないます

次回予告

京都市四条ギャラリー11

今日の表現 2

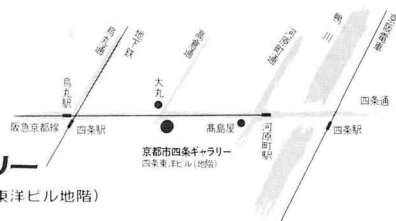
小林正和・尚美展

1990・10・4(木)―10・28(日)

京都市四条ギャラリー

京都市下京区四条通高倉東入(四条東洋ビル地階)
TEL(075)223-1851 〒600

●開所時間：午前10時～午後7時 ●休所日：水曜日、年末・年始



II. 教育普及関係

A. 収蔵品貸出状況

本学外に貸し出された収蔵品は下記のとおりである。

平成2年度総計 17件 41点

作品名	貸出先	展覧会名	会期
浅井忠「琵琶湖風景」	広島県立美術館	浅井忠展	90. 9. 21～10. 14
下村正一「森」	石川県立美術館	日本画家下村正一展	90. 6. 14～ 7. 25
津田周平「さいちょう」 「く夢のように」森の中の裸婦」	津田周平自選展実行委員会	遺作津田周平自選展	90. 6. 22～ 6. 29
宇田荻邨「野々宮」	京都市美術館	燃焼の時代・1950年代	90. 11. 1～11. 29
谷文晁模「荏柄天神縁起」 榊原紫峰模「月下猫児図」 村上華岳模「釈迦成道図」 入江波光模「水天像」 菊池芳文・谷口香嶺模「隨身庭騎絵巻」 柴田晩葉模「伝帝釈天曼荼羅」	滋賀県立近代美術館	模写の魅力巨匠が学ぶ日本の名画	90. 9. 22～10. 28
中谷直子「鶏頭の赤きわまりて大気燃ゆ」	中谷直子	中谷直子展（堺町画廊）	90. 9. 11～ 9. 16
土佐派絵画資料「喜多見勝忠像」	世田谷区立郷土資料館	喜多見氏と喜多見流茶道	90. 10. 30～11. 25
佐野猛夫「凍雲」 「黒い潮」	（財）京都文化財団	佐野猛夫展	90. 10. 23～10. 28
上村松篁「立葵」	毎日新聞・新潟日報社 奈良そごう美術館	上村松篁回顧展	90. 12. 26～91. 2. 13
村山槐多「信州風景」	徳島県立近代美術館	みずえのあけぼのー三宅克己を中心として	91. 1. 26～ 3. 10
前田荻邨「風景」 木村斯光「もだえ」 中村大三郎「花を持てる聖者」 朽木成一「菩提樹の葉陰」 清水主計「檜」 佐藤光華「三五夜中」	栃木県立美術館・徳島県立近代美術館 北海道立函館美術館・読売新聞社・美術館連絡協議会 大正の新しき波	日本画1910～20年代	91. 4. 13～ 7. 7
今井憲一「撮影」 「断面」 「山・高原」 「港」 「蓮池」 「ガーデン」 「聚落」 「祇園会三部作」 「渚」	京都市美術館	今井憲一の遺作と所蔵品	91. 1. 23～ 2. 17

作品名	貸出先	展覧会名	会期
須田国太郎「走鳥」	京都市美術館 日本経済新聞社	生誕百年記念須田国太郎展	91. 4. 25～ 7. 7
秋野不矩「雨期」 宇田荻邨「野々宮」	茨城県近代美術館	戦後日本画の名作展－1945年～1970年－	91. 2. 16～ 3. 24
戸田天波「少女」	井原市立田中美術館	平櫛田中と戸田天波	91. 4. 27～ 5. 26
田村宗立旧蔵粉本「十二天像」2点 「五大虚空蔵図」「龍猛図」	教王護国寺	祈りと護りの世界－東寺の仏教版画	91. 3. 20～ 5. 26
伊藤継郎「三人の裸婦」	芦屋市立美術博物館	伊藤継郎展	91. 5. 24～ 6. 30

B. 収蔵品学内使用状況

本学内に於いて館外使用した収蔵品は下記のとおりである。

総計 24件 26点

資料名		目的	貸出先	使用場所
扇面古写経下絵	3巻	模写	日本画研究室	模写室
百鬼夜行図	1巻	模写	〃	〃
降三世明王像	1幅	模写	〃	〃
大威徳明王像	1幅	模写	〃	〃
焰魔天像	1幅	模写	〃	〃
玉虫厨子須弥座絵	1巻	模写	〃	〃
内沢雪子「冬套」		展示	図書展示委員会	本学ギャラリー
福井宇宙「松影」		展示	〃	〃
藪内美佐子「毎日が楽しい日」		展示	〃	〃
片野満「不正療法」		展示	〃	〃
岡本善彦「theater」		展示	〃	〃
飯塚二郎「Eyes from the Underground I」		展示	〃	〃
岩津博文「A Day In The Life(C)」		展示	〃	〃
石原友明「Self portraits」		展示	〃	〃
砥綿正之「比喻の力」		展示	〃	〃
坂田岳彦「The Other Side of a DREAM」		展示	〃	〃
小島美穂他4名「共同制作ボルボックス」		展示	〃	〃
宝角光伸「ELECTRONIC HOME」		展示	〃	〃
岡野香「網膜の内側の世界を見てⅡ」		展示	〃	〃
明賀政子「陸の船」		展示	〃	〃
村上千穂「雫」		展示	〃	〃
原靖子「SUZURAN」		展示	〃	〃
濱田伸子「Heaven-Ward」		展示	〃	〃
中谷直子「鶏頭の赤きわまりて大気燃ゆ」		展示	〃	〃

C. 収蔵品補修状況

今年度補修修理を行った収蔵品は下記のとおりである。

総計 13件 114点

名称	点数	類別	補修内容
徳岡神泉 「晩秋」	1 面	参考品	改装（額）
榊原紫峰 「月下猫児図模写」	1 幅	参考品	改装（軸）
入江波光 「櫻図模写」	1 幅	参考品	改装（軸）
石崎光瑤 「けり」	1 枚	参考品	裏打
〃 「おなが」	1 枚	参考品	裏打
〃 「鶏頭」	1 枚	参考品	裏打
〃 「菊」	1 枚	参考品	裏打
〃 「春蘭」	1 枚	参考品	裏打
福田翠光 「鷹図下絵」	1 枚	参考品	裏打
村上華岳 「二月の頃」	1 幅	日本画卒業作品	改装（軸）
砂川光弘	3 面	図案卒業作品	額装
「日本室内装飾図案（天象）」			
日比野勝巳「緞帳図案（興亜）」	1 面	図案卒業作品	額装
土佐派絵画資料	100枚	参考品	裏打

D. 収蔵品撮影掲載状況

本学収蔵品の撮影掲載許可は下記のとおりである。

総計 28件 54点

作品名	掲載者	掲載書紙名	発行日
上村松篁「花鳥」	(株)求龍堂	上村松篁画集	1990. 6
猪原大華「池」	毎日新聞社出版局	昭和の美術第3巻	1990. 5
土田麦僊「髪」	朝日新聞社出版局	アサヒグラフ「土田麦僊」	1990. 7
西山英雄「廃船」	(株)便利堂	西山英雄展絵葉書	1990. 5
顔真卿「中字麻姑仙壇記」	芸術新聞社	「墨スペシャル」	1990. 9
土佐派絵画資料「天王寺屋宗閑像」 「宗凡像」	(株)淡交社	茶道誌「淡交」	1990.10
上村松篁「立葵」	(株)新集社	現代の日本画「上村松篁」	1991. 3
加守田章二「抽象文象嵌壺」	(株)日本美術出版	陶芸辞典	1990.12

作品名	掲載者	掲載書紙名	発行日
村上華岳「裸婦画稿」	朝日新聞社出版局	アサヒグラフ 「近代日本画の本画と下絵」	1990. 12
上村松篁「春立つ頃」	(株)求龍堂	上村松篁画集別巻	1990. 2
土佐派絵画資料「茶屋好扇図」	(株)淡交社	茶道誌「なごみ」	1991. 1
入江波光「春雨」 村上華岳「熊」 中村大三郎「柔らかき日影」	(株)ビジョン 企画出版社	季刊誌「アートビジョン」	1990. 12
村上華岳模「釈迦成道図」 榊原紫峰模「岸竹堂筆月下猫児図」	(株)新潮社	「芸術新潮」	1990. 12
福田平八郎「雨後」	(株)新集社	現代の日本画「福田平八郎」	1991. 5
大野倣嵩「彼岸花蕾」	毎日新聞社出版局	昭和の美術第5巻	1991. 3
大津絵「藤娘」	(株)河原書店	「茶道雑誌」	1991. 3
六代清水六兵衛 「紫翠劔花瓶」 「日向葵花瓶」	(株)中央公論社	日本の陶磁現代篇	1991. 2
上村松篁作「立葵」	(株)カツノアート プロダクツ	上村松篁展絵葉書及び色紙	1991. 1
土佐派絵画資料 「今井宗久像」	(株)河原書店	「茶道雑誌」	1991. 2
佐野猛夫「黒い潮」	(株)染織と生活社	「月刊染織α」	1991. 3
土田麦僊「髪」	(株)美術出版社	「美術手帖」	1991. 1
土佐派絵画資料 「源氏絵下絵」	(株)思文閣出版	「石山寺と紫式部－源氏物語」 (石山寺発行)	1991. 4
尾形乾山 「檜梅文様水指」	(株)フィルム アート社	「The あんていーく」	1991. 4
須田国太郎「走鳥」 「馬墨画」	京都新聞社	「須田国太郎画集」	1991. 11
土佐派絵画資料「利久像」	芸能史学会	「芸能研究」第112号	1991. 1

作品名	掲載者	掲載書紙名	発行日
乾山茶碗など 茶碗 7 点	日本セラミックス 協会	「セラミックス」	1991. 4
仁清水指など 京焼 8 点	同上	同上	1991. 6
永楽和全「鎌倉絵鉢」 他栗田焼など 8 点	同上	同上	1991. 7

注：掲載を要しない研究等のための撮影は挙げていない

E. 特別閲覧許可状況

本館収蔵品の特別閲覧状況は下記の通り。

学内関係者	4 件
学外特志者	5 件
総計	9 件